

1 月 行 政 報 告

平成 2 1 年 1 月 1 4 日 提 出

= 総 務 課 =

- 1 ふるさと北栄基金への寄附は、平成 21 年 1 月 5 日現在で 42 件、6,360,000 円となっております。内訳は県内 32 件、県外 10 件。5 万円未満が 31 件、5 万円以上が 4 件、10 万円以上が 5 件、100 万円以上が 2 件となっております。また、寄附先として希望された事業は、ふるさと館及びコナン通りの整備充実に 65 千円、環境保全に 325 千円、子どもの教育・健全育成に 1,930 千円、その他 4,040 千円となっております。
- 2 12 月 15 日～24 日、年末の交通安全県民運動が展開されました。特に年末は、1 日の日照時間が短く、また、忘年会など飲酒の機会も多い時期であることから、町では、飲酒運転の根絶と夜行反射材の着用、自動車前照灯の早期点灯を重点に街頭啓発やパトロールなど行い、交通安全を広く呼びかけました。
- 3 自主防災組織の結成を目指している自治会に対し組織結成に向けた説明会を次の 10 自治会で行いました。阪神淡路大震災の際には、自助・共助が 98%を占め、その内共助は 31%を占めています。災害時にはまず自分の身は自分で守る。そして、地域の共助で生き延びることが大切となります。そのためには自主防災組織が必要であり、町内 63 自治会全てにおいて自主防災組織が結成されるよう今後も説明会を行うなど支援して行きたいと考えます。
説明会開催自治会（10 自治会）

10 月 31 日	由良宿 1 区	11 月 22 日	青木
11 月 9 日	由良宿 7 区	11 月 23 日	下種
11 月 14 日	西園	11 月 27 日	由良宿 3 区
11 月 15 日	緑ヶ丘	12 月 21 日	国坂中
11 月 16 日	松神	12 月 23 日	田井
- 4 12 月 19 日、役場大栄庁舎 2 階第 2・3 会議室において新型インフルエンザ職員研修会を実施しました。研修会は、係長級以上の職員を対象に中部福祉保健局 副局長 吉田良平氏に「新型インフルエンザ対策について」と題して講演いただき、新型インフルエンザとはなにか、その対応はどうすればよいかなど共通の認識を深める目的で行いました。職員からは新型インフルエンザに関する多くの質問もあり、とても関心の高い有意義な研修会となりました。新型インフルエンザとは、鳥が感染するインフルエンザウイルスが、人間同士でも感染しやすくなるウイルスに突然変異し、そのウイルスに人間が感染し起こる病気で、人間にはそのウイルスへの免疫力がないため、世界的な大流行パンデミックが発生する可能性が高くなります。住民への周知は、12 月県政だよりにより行われましたが、予防対策の一つとして、一人当たり最低 50 枚

のマスクを備蓄することを推奨しております。今後は、県と協力しながら、最悪の事態を想定した対応マニュアルを作成します。

- 5 1月4日、大栄中学校体育館において平成21年消防出初め式を開催しました。町消防団、自治会自衛消防団・婦人消防隊など関係者約450名が出席し、1年間の防災の決意を新たにしました。また、式典終了後には、由良川において町消防団、自衛消防団、婦人消防隊による一斉放水を行いました。

= 企画振興課 =

- 1 12月3日、北栄町女性団体連絡協議会主催による「女性と町長と語る会」が開催され、協議会を構成する10団体から20名と、町長、副町長、関係課長及び担当者ら12名が出席しました。

会議では、女性に関わる問題や女性の視点から見た町政全般に関する要望について、意見交換がなされました。その中で、「ファミリーサポートセンターの設置」や「子育て相談や乳幼児の虐待防止に関する周知の徹底」、「乳幼児がいる家庭の訪問指導」、「幼保一元化の検討状況」など子育てに関する質問が多く出されました。詳細を広報1月号に掲載していますので、ご覧ください。

- 2 青山剛昌ふるさと館の入館等実績

	入館者数	うち有料入館者数	入館料
12月分	2,738人	2,445人	1,370,000円
通計	52,893人	48,145人	26,910,000円
前年12月分	2,754人	2,509人	1,487,200円
前年通計	67,663人	58,537人	33,426,250円

- 3 レークサイド大栄主催のG・G大会を開催しました。

期 日	大 会 名	募集人員	参加者数
12/10	第34回男女ペアGG大会	216人	130人
12/17	第57回ふれあいGG大会	216人	209人
前年12/4	第29回男女ペアGG大会	216人	168人
前年12/12	第50回ふれあいGG大会	216人	202人

= 町 民 課 =

- 1 12月25日に幼保一元化施設のあり方検討委員会を開催しました。午前は町内の8園を視察し、午後は新保育指針が告示された背景、内容についての研修を受け、その後意見交換を行いました。

施設見学の感想

- ・小規模保育所は子どもの落ち着いた雰囲気を感じられよい。
- ・子育て支援センターは保育所の中にありかなりの出入りがあるので、別にした

ほうがやりやすいと感じた。

- ・乳児の入所が多い。混合保育ではなく、成長に応じて分けて情緒の発達を伸ばせる環境が必要。
- ・同じ年齢ならば子どもの数に応じて保育士を複数配置し同じ空間で保育するのが良い。
- ・幼稚園は5歳だけでは物足りない。小学校に近いというだけが利点で、園庭、プールの設備は十分でない。が子どもたちは小学生をまじかに見て生き生きしている。(長短あり)
- ・保育所によって、元気よくあいさつをする子が多い所、恥ずかしいのかあいさつの声が小さい所などいろいろ。保育士の資質によるところが大きいのか。保育士は本当に一生懸命がんばっておられるのがよくわかった。
- ・給食は自園調理がよいので継続すべき。園で育てた野菜を食べるなどは食育の面でもよい。
- ・町全体からみると、大栄地区は地域性を大切にし、施設は古くても保育の質を高めていけばよい。一方北条地区は施設の位置は近い気がする。
- ・外部に対する安全管理が私立は監視カメラの設置できちんとされている。

課題

- ・子育て支援センターの設置場所など運営に関すること
- ・年齢に応じたクラスわけで個々に応じたかかわりのできる保育。特に3歳未満児は保育士の配置を厚くする
- ・財源は変わらずに現状の施設維持をすれば保育の質の向上は期待できない。より良い保育をしていくためには、施設の統合を検討していかなければならない。
- ・新保育指針をいかに実施するかは町の責任にかかっている。
- ・保護者支援、苦情処理はシステム化し、内容に応じて担当を分けたり、処理過程の透明性が求められる。保護者との信頼関係維持のため第三者委員会の機能充実と存在を周知する。

提言の作成にむけて委員にアンケート実施

- ・北栄町の子どもにどんなふうに育ててほしいか。
- ・就学前の子どもの育ちに必要なことは何か。
- ・施設において子どもたちにはどんな経験・体験をしてほしいか。
- ・どのような形のクラスがよいか。
- ・各年齢において適切なクラスの人数は。
- ・どんな職員を望むか。
- ・施設にはどんな設備がいいか。(環境、部屋、園庭など)
- ・子育てに不安を感じている保護者が増えていることに対し、保育所、幼稚園に何を期待するか。
- ・支援の必要な子どもが増えているが、保育所、幼稚園でどんな支援をすればよいか。
- ・施設を集約化することのメリット、デメリットは何か。

= 税 務 課 =

1 12月1日を基準日として交付する納税組合運営費補助金を交付します。概要は次のとおりです。

区 分	基準額	組合数	世帯数	補助金額
期限内に完納	3,000 円	36 組合 (25)	476 世帯 (271)	1,428,000 円 (813,000)
納期期限に納付すべき額の 80%以上を納付	2,700 円	103 組合 (117)	2,970 世帯 (3,009)	8,019,000 円 (8,124,300)
納期期限に納付すべき額の 79%以下を納付	2,000 円	8 組合 (5)	149 世帯 (118)	298,000 円 (236,000)
計		147 組合 (147)	3,595 世帯 (3,398)	9,745,000 円 (9,173,300)
平均納付率 96.10%	支出会計別		一般会計	5,847,000 円
			国保会計	3,898,000 円

() 内は昨年数値

2 2月16日(月)～3月16日(月)までの間、役場大栄庁舎2階会議室において確定申告相談を開催します。また、申告相談期間前半の2月16日(月)～2月27日(金)の間は、北条健康福祉センターにおいても申告相談を受付します。なお、身体の障がい等により2階に上がれない方については、申告期間中、随時税務課窓口で相談を受付します。

= 健康福祉課 =

1 12月1日、第2回国民健康保険運営協議会を6名の委員の出席により開催しました。平成20年度国民健康保険事業実施状況についての報告及び平成21年度国民健康保険事業計画(案)について説明し、国保会計の健全な運営を図るための具体的な対策について協議しました。被保険者の未適用者の防止について事業所等と連携を図ってはどうか、国保事業について被保険者の理解が得られるよう積極的な広報活動を行って欲しい等の意見をいただきました。

また、産科医療補償制度創設に伴う出産育児一時金の見直し及び70歳から74歳までの医療費の自己負担の凍結など高齢者医療の負担の見直しについて現在の状況を説明しました。

2 12月16日、北条健康福祉センターにおいて、第1回目の認知症の人の「家族の集い」を開催しました。認知症の人と家族の会鳥取県支部代表世話人の吉野立氏、中部支部の相談員を招き、参加者同士が日頃の思い、介護の苦労や悩みを語りあい有意義な会とな

りました。今後 3 回開催することとしています。

- 12月19日、第2回健康ほくえい計画推進会議を13名の委員の出席により開催しました。会議内容は健康なまち町民大会の健康施策「健康寿命の延伸」「医療費削減～高血圧を主にした生活習慣病予防対策」「要介護者の減少」の実現に向けて、健康ほくえい計画の進捗状況を整理し、今後の健康支援事業について意見交換を行いました。現在、健康づくりの視点に運動が置かれていることから、委員に運動専門員を加え助言をいただきました。平成21年度はさらに「健康人生達成」にむけて内容を充実させ、組織の連携を強化した健康づくりに向けてよい意見をいただく会となりました。

= 産業振興課 =

- 12月10日、農業経営改善計画認定申請書の審査会が、北条庁舎会議室で開催されました。この会議を受けて、認定農業者について新規3件、更新1件が認定され、町内の認定農業者数は203経営体となりました。
- 12月22日、JA鳥取中央長芋生産部総代会がJA大栄支所改善センターで開催され、生産者総代、JA、県及び町等の関係者約60名が出席しました。事業報告で平成19年産販売実績について報告があり、長芋は販売量88,553ケース(対前年比93%)、販売金額218,521千円(同110%)、ねばりっこは販売量3,713ケース(同461%)、販売金額14,312千円(同433%)でした。また、今後の事業計画で、安全安心な長芋生産、計画出荷と安定生産、消費拡大対策、ねばりっこの振興対策などについて協議されました。

= 農業委員会 =

- 12月10日、平成20年第12回農業委員会総会を開催し、次のとおり審議決定されました。

区 分		件数	面積(m ²)	
農地法第3条受理	畑	8	15,046.00	
農地法第20条受理(賃貸借の解約)	田	1	6,275.00	
	畑	3	34,638.00	
	計	4	40,913.00	
農用地利用集積計画受理	利用権設定	田	20	55,377.00
		畑	56	207,126.00
		樹園地	2	1,556.00
		計	78	264,059.00

= 環境政策課 =

- 12月17日、温暖化ストップキャンペーン「我が家節電家族」の表彰式を行いました。これは6月から9月までの4ヶ月間の電気使用量を前年同月の使用量と比較し、どれだけ節電できたかを競っていただくもので、12家族から応募がありました。

1等	林 邦子	節電率	76.55%
2等	小原真由美	同	78.94%
2等	徳岡和枝	同	79.55%
3等	小倉健二	同	84.73%
3等	杉上潤子	同	86.45%
3等	福田忠明	同	87.26%
3等	磯江陽子	同	87.46%
3等	東地悦子	同	90.06%
3等	徳山敏雅	同	92.64%
3等	穴戸みどり	同	94.14%
3等	日置泰子	同	95.99%
3等	竹歳浩史	同	96.86%



2 2月1日、第14回全国風サミット in ほくえいのプレイベントとして、「北栄町子どもエコクラブ発表会」を開催いたします。

テーマ 私たちがかえる・未来のために

場所 大栄農村環境改善センター

プログラム

10:00～10:10 開会あいさつ

10:15～10:25 大誠保育所の取組発表

10:30～10:40 北条幼稚園の取組発表

10:45～10:55 大栄小学校の取組発表

11:00～11:10 大栄中学校の取組発表

11:15～12:00 子ども達によるパネルディスカッション

コーディネーター 鳥取環境大学学生

パネリスト 北条小学校代表、大栄小学校代表

北条中学校代表、大栄中学校代表

高校生（北条中学校OB）

取組発表のない保育所、幼稚園、小学校、中学校によるパネル展を併設

3 12月の「北条砂丘風力発電所」の稼働状況は、次のとおりでした。

売電電力量： 2,706,960 kWh 達成率： 101.1% CO₂削減量： 1,502.4 t

売電収入： 31,975,965 円

4 「北条砂丘風力発電所」の見学状況は次のとおりでした。

月 日	見 学 者	参加人数
12月7日	シャープ労働組合	29人

5 住宅入居状況 12月末

(1) 町営住宅入居状況

住宅名	全戸数	入居戸数	空き戸数	募集期間	備考
由良宿団地	60	60	0		
六尾北団地	45	45	0		
向山団地	15	14	1		
中央団地	8	8	0		

六尾北団地、向山団地で、各1戸 12月26日退去

1月下旬から募集開始、入居可能日 2月中旬

(2) 県営住宅入居状況

住宅名	全戸数	入居戸数	空き戸数	募集期間	備考
栄第1団地	8	8	0		
栄第2団地	8	8	0		
大野団地	6	6	0		

= 上下水道課 =

1 次のとおり、上水道工事及び業務を発注しました。

入札日	工事名	内 容	指名業者数	入札回数	予定価格	工期
				落札業者	契約金額	
12/18	配水管移転工事 (下水道曲12工区)	塩化ビニール管布設 75 L=77.7m	8社	1回	1,459,500	12/25 ~
				(有)中原設備商会	1,407,000	3/25
12/18	配水管移転工事 (下水道米里1-3工区)	水道配水用ポリエチレン管布設 100 L=252.4m	8社	1回	4,084,500	12/25 ~
				吉村建材(有)	3,916,500	3/27
12/25	上水道用公用車購入	ジムニー(4WD) 付属品(広報設備、キャリア)	3社	1回	1,669,500	納車
				(有)青山車両	1,484,490	1/31

2 次のとおり、下水道工事を発注しました。

入札日	工事名	内 容	指名業者数	入札回数	予定価格	工期
				落札業者	契約金額	
12/17	曲管渠新設(11工区)工事	開削工法 塩ビ管 150mm 延長 362.0m	10社	1回	14,700,000	12/19 ~
				晃進建設(有)	14,280,000	3/25
12/17	曲管渠新設(12工区)工事	開削工法 塩ビ管 75、150mm 延長 70.7m	10社	1回	13,020,000	12/19 ~
				(有)技建	12,705,000	3/25

3 12月10日、国土交通省都市局所管の公共下水道事業の会計検査を受検しました。検査対象は平成18～20年度の3ヵ年に実施した20,000千円以上の下水道工事で22件が対象となりました。結果については特に指摘もなく無事終了いたしました。

4 12月19日、下水道使用料審議会を開催しました。昨年9月より諮問していましたが内容に対し審議を重ねていただき、結論としての答申を受けました。

答申内容の概要

下水道使用料を平均13%改定する。

基本料金部分の改定率は12.5%、超過料金部分の改定率は13.3%とする。

使用料改定時期は、平成21年度からとし、周知期間を置くものとする。

付帯意見

水洗化率の向上

下水道接続加入を促進し、下水道整備の早期完了を行うこと。

収納率の向上

下水道利用者の公平性を図るため、収納率の向上に努めること。

維持管理費の縮減

下水道施設の維持管理費の縮減に努め、効率的な経営を図ること。

= 教育総務課 =

1 12月22日、第15回教育委員会定例会を開催しました。議事内容は次のとおりで原案どおり承認されました。また、北条小学校校舎改築工事の進捗状況、「北栄町教育ビジョン」の評価内容及び小中学校からの陳情内容について報告し協議した後、平成21年度全国学力・学習状況調査に関する情報交換を行いました。

議事項目

- ・要保護・準要保護児童生徒の認定について

2 1月7日、第1回教育委員会臨時会を開催しました。平成21年度全国学力・学習状況調査への参加について協議をした結果、参加することが確認されました。

= 生涯学習課 =

1 12月1日～12月26日、北条歴史民俗資料館において、「砂丘開拓のあゆみ展」と題して、砂丘地を開墾し灌漑用水路や水田をつくった梶田新蔵さんの開拓事業を中心に砂丘開拓の歴史を紹介しました。また、前田利三画伯の油彩画や以前寄贈いただいた茶道具の展示も行いました。入館者数は60名でした。

2 12月7日、第31回北条砂丘クロスカンントリー大会が、(財)北条スポーツクラブ主管で北条オートキャンプ場を中心とした周辺の松林や海岸を走る2.4km、4km、6kmの3コースで行われました。参加者は431名でした。

3 1月1日、第39回北栄町元旦マラソン&ウォーキング大会が、(財)北条スポーツ

クラブ主管で北条農村環境改善センター周辺の3 kmと1 kmのコースで行われました。参加者は186名でした。

- 4 1月3日、大栄農村環境改善センターにおいて、「平成21年北栄町成人式」を挙行し、社会の形成者として良き成人となることの自覚と、自ら生き抜こうとする意欲を促すため、来賓祝辞や記念品贈呈及び瀬戸獅子舞保存会によるアトラクション等で新成人の新しい門出を祝福しました。新成人の参加者は215名中157名(73%)でした。
- 5 1月24日(土)~2月8日(日)まで、北条歴史民俗資料館において「郷土の作家たち~山根和夫写真展~緑の大地・風の舞うふるさとに生きる」と題して、自分の家の庭から大自然まで幅広いフィールドで撮った写真を中心に46点を展示する予定です。
- 6 1月31日(土)~2月8日(日)まで、北栄町中央公民館と大栄分館において「第3回北栄町公民館まつり」と題して、作品展を開催します。日本画・洋画・書道・写真・陶芸・ちぎり絵・手芸等の作品を約300点展示します。なお、2月8日(日)には、大栄農村環境改善センターにおいて、午前9時より「ほくえいふれあい芸能発表会」を行います。民踊・舞踊・合唱・カラオケ・大正琴・銭太鼓・安来節等の出演者(団体)は、39組を予定しています。

= 人権同和教育課 =

- 1 12月3日、人権週間の啓発活動として、人権擁護委員が町内の14事業所を訪問し、「思いやりの心」と「かけがえのない命」の大切さについて、身の回りを振り返って話し合っていたくようお願いして回りました。併せて、従業員の公正採用や事業所研修の開催もお願いしました。訪問は、人権擁護委員5人、松本町長、阪本議会議長、人権同和教育課職員で行いました。
- 2 12月13日~15日の3日間、大栄文化センターで「第23回北栄町大栄部落解放文化祭」が開催されました。作品展、芸能発表、意見発表と盛会に催され、地元の人々は元より周辺地域の人々、さらに北条地区からも参加していただき、多くの参加者でにぎわいました。3日間で680名の方が訪れました。
- 3 12月19日、由良宿1区老人クラブの高齢者小地域懇談会が開かれ、人権教育推進員が指導・助言にあたりました。参加者は35人でした。
- 4 12月19日、役場大栄庁舎会議室で人権同和教育推進指導員会議を開催し、人権同和教育小地域懇談会並びに同和教育交流研修会の実施結果の総括を行い、反省しました。出席者は推進指導員16人でした。

総括

- ・ 昨年の分析をふまえ、今年から自治会住民の司会による暮らしに身近な視点からの懇談に取り組んだが、地域における人権課題や学習ニーズをふまえた話し合いが求められている中で、今後も進めていくべき有効な手法である。
- ・ 参加者数(1,112人)が昨年(1,015人)との比較で約1割の増となったのは、各自治会において各種団体(消防団・婦人会等)をとおして参加呼びかけを行っていただいたこと、そして地域の学習ニーズに沿った学習内容を各自治会において検討・実施していただいたことが参加者数に表れたのでは。
- ・ 小地域懇談会において学んだことを、具体的にどのように暮らしに活かしていくのかまで繋がっていかないという意見も聞かれることから、行動に導くために〔目標設定 身のまわりの点検 課題提起 目標をめざして一人ひとり、家庭、地域で何ができるか〕というような話し合いの流れを確立し、今後も継続的に再点検しながら取り組んでいく必要がある。

今後の取り組み事項

- ・ 小地域懇談会で学習したことを参加できなかった住民に情報発信していく。
町報・HP・ケーブルテレビを活用
- ・ 学んだことを暮らしに活かしていくために、話し合いの流れを明確に示す。
ワークシート等を作成し、取り組み目標の達成に向けた話し合いを行う工夫をする。
- ・ 地域主導型の懇談を行う体制を整備する。
自治会住民の司会による身近な視点での懇談を今後も推進する。
地域の学習ニーズ・人権課題に沿った学習内容を提案する。
各自治会との事前打ち合わせを充分に行う。
- ・ 来年度は交流研修会を小地域懇談会において複数提案する学習内容の一つに組み入れて実施する。